

福江城跡

福江城は、徳川幕府（1603-1868）が崩壊し、武士階級が解体される前に建てられた最後の城である。別名「石田城」とも呼ばれるこの城は、日本に数少ない「海城」（海に面して築かれ、海上交通の統制や防御を目的とした城）のひとつである。築城当時、福江城は三方を海に囲まれ、堀には海水が満たされていた。

福江藩主の五島家は何度も幕府に築城の許可を願い出たが、1849 年まで許可されなかった。当時、幕府は外国の海軍力と侵略の脅威への懸念を強めており、福江城は日本の海上防衛を強化するためのものだった。

藩の財源が限られていたこともあり、築城には 14 年を要した。また、海岸沿いという立地条件もあり、作業員は干潮時にしか基礎工事を行うことができなかった。城壁に必要な正確な石を切り出すことのできる熟練の石工も不足していた。地元の石工たちは、遠く北海道の函館まで技術を学びに行った。

残念ながら、城の内部構造は完成からわずか 9 年後の 1872 年に取り壊された。それでも外壁、堀、石橋は残っており、1858 年に藩主五島盛成（1816-1890）が建てた隠居所と庭園もある。また、堀の中には五島観光歴史資料館がある。